

プロジェクト名称	ほっともっと農業体験
現状(問題点,背景)	<p>農業生産の多い土浦の中でも農業の盛んな地域の一つが新治地区であり、桜川周辺の平坦な土地には水田が、筑波山南麓には果樹園が、と種類も規模も地域有数である。一方で農業の担い手の高齢化や跡継ぎ不足などにより耕作放棄地の増加などの問題も顕在化している。</p> <p>また、現在小町の里などで農業体験が催されているが、これらは「農業の体験」に主眼が置かれ参加者同士の交流は生まれていない。</p>
目的・趣旨	<p>普段農業に縁のない市内外の住民へと農業に関する体験の場を提供することで、食について深める食育効果を狙うとともに市内の農業の現状への関心をもつきっかけとなることを目指す。</p> <p>また、つちうらの農業資源の魅力に気づき好きになってもらい、市内外へと土浦ブランドを発信してゆくことで観光資源としても土浦の農業を位置付ける。</p>
内容	<p>新治地区においてホームステイ形式と日帰り形式での農家体験を実施する。従来の、農作業のみを経験して解散するという形式のものを拡充し農作業と交流を共に産み出すものをめざす。</p> <p>前者は短期間の宿泊を伴いながら農作業や食事づくりなどの農業に関する生活をトータルに体験する内容を設定する。後者は参加者がいくつかのグループに分かれ収穫や手入れなどの農業体験と食事づくりなどの共同作業を行う内容を設定し、日帰り観光客等の参加も促す。</p> <p>これらの活動を通して、農業について経験を伴う理解を促すとともに、参加者同士・また農家と参加者同士の交流を促進することとする。</p> <p>またこの取り組みでは農業に関わりのない人々における農業への関心を集めることで農業の新規担い手を育成するスタート地点としての効果も狙う。</p>
将来目標	<p>新治において、農業に食糧生産と観光の役割を担わせることで、農業の振興と土浦ブランドのアップールを図る。</p>
期間	農業体験 平成 26 年～
場所	新治地区(小町の館、周辺農家)
対象者	市内外住民、ポタリング参加者などの観光客
運営主体	土浦市(小町の館)、JA にいはり
運営方法	土浦市の施設である小町の館を拠点とし受け入れや事務を行う。農業の面においては JA とも連携を図る。
イニシャルコスト	とくになし
資金源	
ランニングコスト	事務費・機材費・人件費、受け入れ先農家への経費支給
資金源	事務は市職員で対応。消耗品は参加者負担。
今後の課題	受け入れ先農家の選定、ポタリングコースとの連携模索